

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 27 日作成)

小委員会名	環境まちづくり小委員会	主 査 名：川崎興太 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：出口敦 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本小委員会は、都市計画にかかわる環境政策・制度の整理・分析を行うとともに、土地利用政策、交通政策、エネルギー政策などを含めた総合的な観点から、環境モデル都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりの実態と課題を把握し、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについての探求・提言を行うことを目的とするものである。</li> <li>・ 2013 年度には、環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点を把握する。自治体との協働体制の構築を働きかけ、環境まちづくりに関する具体的な研究を進めることをめざす。学会全国大会に際しては、オーガナイズドセッションを実施する。</li> <li>・ 2014 年度には、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に検討する。学会全国大会に際しては、研究懇談会とオーガナイズドセッションを実施する。最終的には、成果物の出版の目途をつける。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	川崎興太 (福島大学)、大和田清隆 (オリエンタルコンサルタンツ)、小野尋子 (琉球大学)、安藤尚一 (政策研究大学院大学)、池田孝之 (沖縄美ら島財団)、郭東潤 (千葉大学)、加藤宏承 (オリエンタルコンサルタンツ)、斎藤伊久太郎 (千葉大学)、斎藤充弘 (福島工業高等専門学校)、田中宏実 (藤女子大学)、辻本乃理子 (大阪健康福祉短期大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://blogs.yahoo.co.jp/kankyo_machi">http://blogs.yahoo.co.jp/kankyo_machi</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	オーガナイズドセッション
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行うことができた。</li> <li>2. 学会全国大会においては、オーガナイズドセッションを実施し、除染や再生可能エネルギーなどに関して、議論を深めることができた。</li> <li>3. 千葉県山武市を対象として現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握することができた。</li> </ol> <p>以上から、目標を十分に達成することができたと考えられる。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014 年度には、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に検討することを予定しているので、引き続き、全国各地の環境まちづくりに関する事例収集、その実態と問題点に関する情報交換・共有化を図っていきたい。</li> <li>2. また、学会全国大会においては、研究懇談会とオーガナイズドセッションを実施することを予定しているので、効果的な企画・運営のもとに、これを重要な契機として研究を深めていきたい。</li> <li>3. さらに、2年間にわたる小委員会の活動成果については書籍として出版することを予定しているので、早期に出版ワーキングを組織化し、来年度中に出版の目途をつけたい。</li> </ol>

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。